

学校紹介

シリーズ



東桂小学校は、都留市夏狩七九六番地（海拔五五九m）に所在しています。

児童総数は、七八三名と、市内八つの小学校のなかでは二番目の規模を誇ります。

またモダンな校舎をはじめ、教育施設は充実しており、児童は恵まれた環境のなかでスクスクと育っています。

この学校では、児童の健やかな心の育成には、まずなによりも毎日のあいさつが大切であるとして「あいさつ運動」を重点的に展開しています。

友だち同志で交す朝の「おはよう」というあいさつ。

廊下ですれちがった先生への、「こんにちわ」というあいさつ。また下校時の「さようなら」のことば。

どの児童もきちんとできており相手の心に響く語りかけになっています。

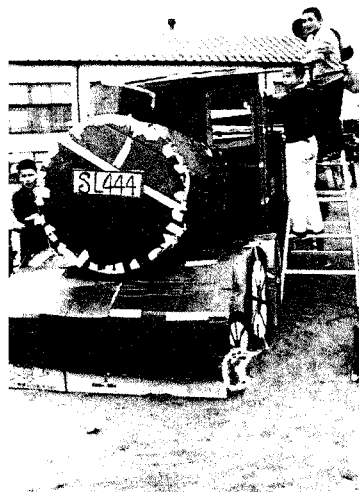
少年非行の低年齢化が進むなかで、このあいさつを交しあう運動は、児童たちのいたわりあいの精神の養成に大いに役立っています。

SLに乗って

夢の国まで

東桂小学校では昨年、廃物を利用した「工作集会」を開いています。

▼いまにも走りだしそうな「SL444」



東桂小のシンボル 「キヤラの木」



この集会は、いらなくなった段ボールなどシンプルな素材を使って、児童たちに自主性・創造力・協調性などを身につける実践の場として始められたものです。

今年のテーマは「のりもの」ということで、異学年の児童が十のグループに分れ、仲よく思い思いの作品を秘密のうちに作制しました。

十一月七日、校庭いっぱいには部品の繰り広げの組立作業。このとき初めて十の作品がペールを脱ぐわけです。

夢の国行き列車、UFO、ゆうれいバス等々、苦心の作の完成におもわず「バンザイ」の声も。ズラリ並んだ十の作品を前に児童たちはひとつのものを造りあげた喜びを、実感としてかみしめていました。

豊かな心・たくましい体 確かな学力の育成

東桂小学校長 前田 宣男

本校は、大正元年四つの小学校と一分教場を統合して、現在地に東桂小学校として創立してから、今年で七十一年を迎えます。

昭和二年十月八日づけの山梨日日新聞が「名物は名土」——お蔭で村民ホクホク——という見出しで東桂をとりあげ、郡内の代表人物は東桂村からといわれるだけに同村からは東電社長神戸一氏、前代議士三枝彦太郎氏、理学博士三枝彦雄氏等を産み、全く「名土の名物村」と村民が鼻を高々とする値打ちがあると報じています。

このような立派な先輩の輩出と輝かしい歴史と伝統を、次代を背負って立つ子供達に継承していくことが、私達に課せられた使命であり、責務であると考えています。

現在の校舎は、都留市の西玄関口にあたり、西に麗峰富士を望む山紫水明の地に建ち、恵まれた施設・設備を備えています。

教育目標として——実践意欲の強い子ども——自主性に富み、知性の高い子ども——健康にして、明朗な子どもを掲げ、達成をめざしています。

新指導要領の実施に対応して、知・徳・体の調和がとれ、充実した中にゆとりのある学校生活の実現を目指して、フィールドアスレチックスを利用しての体力づくり学習園を活用した勤労体験学習、児童会を中心にした自治活動による学校生活の展開などに日々取り組んでいます。

PTA活動も活発で、学ぶPTAをモットーに、地域や家庭での教育力を高める為に、学年で又全体で計画的な研修を積み重ねています。

学区内のPTA・民生委員・自治会・育成会・婦人会等と学校が共同して「児童・生徒健全育成懇談会」もスタートし、非行のない明るい地域づくりに取り組んでいます。



11月3日に行なった歩け歩け大会（校長も父兄も参加）